

伝説や昔話 — 山椒太夫伝説 —

由良にある「もみじ公園」に、高さ3メートルほどもある「安寿と厨子王」の像があります。そのそばの石碑に、次のような文が書いてあります。



安寿と厨子王碑

筑紫の国（今の福岡県）に流された父を尋ねて、母と共に越後（今の新潟県）を旅立った姉弟「安寿と厨子王」。旅の途中、人買いに取られ、母は佐渡へ、姉弟は丹後由良の山椒太夫の所へ売られた。姉は命と引き換えに弟を逃がし、都に出た厨子王は丹後の国守となり、悪人を成敗し、盲目となった母と再会したという。



地藏堂 (如意寺)

山椒太夫伝説は、安寿と厨子王物語としても親しまれています。由良の宮本地区にある如意寺には、今でも「身代わり地蔵」がまつられています。それには、次のようなお話があるからです。

安寿は海で潮くみを、厨子王は山でしばかりをと、なれないきびしい仕事をさせられる毎日でした。

山椒太夫やむすこは、二人がにげ出さないよう、ひたいに焼きごてをあてるなどひどいしうちをしました。

しかし、そのやけどあとは、いつの間になくなっていました。

母と別れるときにもらった地蔵菩薩を見ると、その小さなひたいに十文字のきずができていました。二人の身代わりになったからといわれています。

この姉の安寿と弟の厨子王の悲しい物語は、説教節（人の集まる場所で、節をつけながら語って聞かせる物語）「さんせう太夫」として約400年ほど前につくられ、楽器の音に合わせて語りつがれてきました。

また、約100年前の1915（大正4）年に、森鷗外がこの話をもとにした文学作品をあらわし、多く読まれるようになりました。

奈具の海岸をこえて由良地区に入ると、海がわの公園に、「森鷗外文学碑」と書かれた大きな石碑があります。

調べてみよう

・宮津市には「山椒太夫」のような伝説や昔話がたくさんあります。お年よりや地域の人いろいろなことを聞いて調べてみましょう。



山椒太夫屋敷跡



森鷗外文学碑

山椒太夫物語って
どんなお話だろう。
もっとくわしく調べて
みよう。

